

今、輝いている
あなたにクリック
Click on you shining now

編集 今回の「今、輝いているあなたにクリック」は、志摩シルバーケア豊壽園より事業相談グループの有竹さん、瀬崎さん、矢田さん、仲川さんの4名です。よろしくお願ひします。



編集 洗心福祉会に入社して何年目になりますか？

介護福祉士 **有竹** 12年目。 介護支援専門員 **瀬崎** 10年目。

管理栄養士 **矢田** 3年目。
(志摩特養へ異動になってからは1年目です。) 一級建築士 **仲川** 5年目。
(2019年8月1日より)

編集 入社されて印象深かったことを教えてください。

有竹 デイサービス・老健・デイケア・特養と様々な現場で働いていました。働いていた日々全てが印象深いことばかりでしたが、どの職員さんも、優しく接してくださったことです。あとは、小さな事柄でも、ご利用者に『ありがとう』と言葉を掛けてくれたことです。

瀬崎 実習で特養に来て、入職させていただいたのですが、皆さん優しく指導してくださり、今の自分があります。また、ご利用者から「ありがとう」や「来てくれてよかった」等のお言葉いただくと、嬉しい気持ちになります。

矢田 右も左もわからない私に職員さんから「分からないことがあれば何でも言ってね。」と優しく言葉掛けをくださったことです。志摩特養へ異動になっても、同じでした。

仲川 事業所(施設)及び職員の多さ(これまで両手の指では足りない数の会社にお世話になりましたが、いずれも10人足らずの事業所でした)。

編集 ご利用者に関わるなかで大切にしていることはありますか？

有竹 身長が187cmと背が高いため、常に、ご利用者の目線にあわせて話をすることを心掛けています。また、声のトーンや大きさに気をつけるよう心掛けています。

瀬崎 ご利用者とお話するのが好きなので、相手に喜んでもらえるような声掛けを意識しています。それぞれの考え方や、敬う気持ちを持ちながら、相手の立場になって考えることで、良い信頼関係が築けるように意識しています。

矢田 視線を合わせ、高圧的にならないように、優しい言葉掛けを心掛けています。話し方次第で怒ったように聞こえてしまうので、難しいところではあります。

仲川 挨拶・会話をすることです。

編集 趣味や休日の過ごし方について教えてください。

有竹 休日は、ドライブに行ったり、食べ歩きをしたりしています。最近では、固定のお店しか行っていないため、新規開拓していきたいです。

瀬崎 最近では、友人と川辺にキャンプに行ったり、バドミントンでストレス発散したりしています。

矢田 羊毛フェルトで小さな人形をつったり、読書をしたりと家でのんびり過ごすことが多いです。

仲川 古くなった自宅の修繕と愛犬の世話(癒されています)。

編集 今後の目標がありましたら教えてください。

有竹 生活相談員になってから、もうじき1年になるため、今後も日々スキルアップしていきたいです。

瀬崎 日々勉強し、色々な分野で活躍できる介護員になりたいと思います。この仕事を通じて人間としてもスキルアップしたいと思っています。

矢田 管理栄養士としてまだ未来像がみえていないので、先輩方のお話しや業務を通して、日々研鑽していきたいです。

仲川 健康維持のために、程よい食事制限を厳守。

編集 本日はお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

洗心

いまをもっと楽しく。



- p2. 在宅サービスの要として
- p3. 訪問介護記録ソフト「SHUTTLE」
- p4. ～「夏」の挑戦！～
／～いらっしゃいませ、夏まつり！～
- p5. 10周年記念イベント開催
- p6. 祝 敬老インタビュー
- p7. ともに学び、ともに育む
- p8. 今、輝いているあなたにクリック

法人理念

- 1 当法人は、公器として地域社会に貢献する。
- 2 当法人は、事業を通じ安心と健康をモットーに、夢と希望を創造する。
- 3 当法人は、未来発展を目指し、人々の生活と社会の変化に常に誠意を持って前向きに取り組む。

社会福祉法人 洗心福祉会からの お知らせ

社会福祉法人洗心福祉会の令和5年理事会及び評議員会がそれぞれ洗心福祉会本町総合事務所5階会議室にて開催されました。理事会では理事4名と監事2名が、評議員会では評議員6名のほか、理事及び監事がそれぞれ出席され、社会福祉法人洗心福祉会定款の一部改正する定款についてのほか、令和4年度社会福祉法人洗心福祉会事業実績報告及び同会計決算報告について、各種規程の改正に係る議案案件等厳正に審査され、それぞれ原案どおりに可決されました。概要については、社会福祉法人洗心福祉会本町総合事務所3階ロビー掲示板に掲示を、またその内容については膨大なため、同事務所総務課にて閲覧が出来ますので、担当職員までお申下下さい。

在宅サービスの要として

本町訪問事業施設長
宇陀 耕司

秋冷の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は5類へ移行となりましたが、感染者数は依然落ち付かない状況が続いています。感染対策を講じながらも、在宅サービスの維持とご利用者支援に尽力されているすべての訪問従事者の方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

さて、石の上にも三年と言いますが、私が訪問事業を務めることになり、早6年が経過しました。特に訪問介護事業においてはホームヘルパー（訪問介護員）の高齢化と共に、そもそもの人材確保が全国的に大きな課題となっています。ホームヘルパーの有効求人倍率は15倍以上となっている中、多くの人材に訪問事業の魅力をいかに伝えていくことができるの

か、私たちは試行錯誤や模索を続け、結果ICTの導入による業務改革を行うことができました。新しい試みへの戸惑いや不安の声もありましたが、すべての世代の職員が使いこなすことができ、かつ訪問事業にとってより効果的なICTを選定するに至りました。

またコロナ禍を通してこのICTの導入をきっかけに会議や研修の在り方を見直す良い機会にもなり、先行導入から始まった訪問事業のICT化も、令和5年度より法人内のすべての訪問介護事業所が同じシステムを導入するとともに、業務の効率化と簡素化、また標準化に結び付けることができています。

迫る2025年問題において、訪問介護・訪問看護事業は在宅サービスの要と位置付けられています。住み慣れた地域と自宅で最期を迎えたいといった願いも、それを可能にするサービスが希薄している

地域においては、在宅生活の継続も難しいと言えます。この先AIや介護ロボットの技術が如何に進歩したとしても、介護や支援を行ううえで、人と人の繋がりや温もり、その人を慮ることができるのは、やはり個々の人同士でないと成立するものではないと私は思います。福祉人材の確保に向け、厚生労働省は訪問介護における外国人労働者の検討を始めました。外国人労働者にいかに介護技術以外の日本独特の感覚や慮る心というものを伝えることができるのか、コミュニケーション能力や文化の違いなど条件や課題は様々です。しかし、今後外国人労働者の採用が可能となり、支援の仕組みが実現されれば、地域における福祉ニーズの充足と地域福祉の発展に必ず繋がっていくはずです。ハードルは高いですが、それまでに外国人労働者へ指導が行える職員を育成できるよう研鑽していきたいと思ひます。



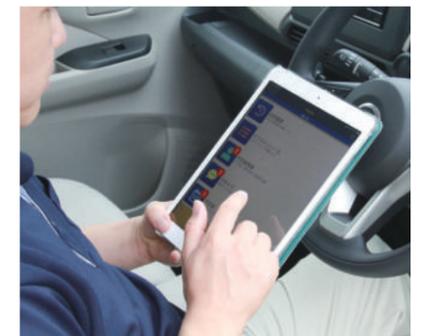
津中央ヘルパーステーションシルバーケア豊寿園

訪問介護記録ソフト「SHUTTLE」

導入までの経緯

訪問介護事業では請求業務の効率化と全事業所での特定事業所加算の算定が大きな課題でした。規模の大きな事業所ほど、請求業務にかかる時間外の割合が高く、紙ベースでの個票（請求実績）という実績票の確認作業が大きな負担となっていました。また、大規模事業所で特定事業所加算の算定要件を満たすためには ICT の活用なくしては困難な要件もあり、これからの事業運営を考えていくうえでも職場環境の改善と加算算定は必須事項でした。

まずは、当法人の訪問介護事業に適したもので、全世代の職員が使いやすいものを選定する作業に時間をかけ、「SHUTTLE（シャトル）」の導入に至りました。大規模事業所から導入を図り、津中央ヘルパーステーションがモデル事業所として令和2年度から本格的に運用を始めました。



導入効果

タブレットに初めて触れる職員にも操作方法等理解できるようにシンプルな解説書を作成し、わからない時はいつでも説明できる体制を整え、職員の不安を軽減できるようにしました。現在 20 代から 70 代までの職員がこのシステムを使いこなしています。職員からは「ご利用者の訪問前後の記録が共有できわかりやすくなった」「申し送り事項やキャンセルの連絡も一目でわかるので助かる」「請求業務の確認作業が楽になり残業がなくなった」との声もありました。実際、請求業務における時間外業務はほぼゼロとなりました。

活用状況

現在 ICT 導入から 3 年が経過し、コロナ禍もあり会議については ZOOM を基本として実施し、研修についても動画配信を取り入れながら ICT を活用しています。

令和 5 年度からは法人内の全訪問介護事業所でもこのシステムを導入し、業務の改善と統一化を図っています。訪問介護の経験が浅い管理者でも統一したシステムで管理業務を行うことで事業所の状況が可視化されました。その結果、情報の共有がしやすくなり運営に関するアドバイスも的確に行えるようになりました。

訪問介護に少しでも興味を持ってもらうために、ICT の活用を広げ若い世代の人材確保につながっていければと期待しています。

はなこま保育園

～「夏」の挑戦！～

子どもたちにとって楽しいことがいっぱい「夏」。今年も保育園でも子どもたちと一緒に「夏」を満喫しました。

水遊びやプール遊び、夏祭りや夏のカーニバル（5歳児）と、楽しい行事も盛りだくさんですが、日々のチャレンジもありました。

毎年、年長児があさがおやキュウリを育ててくれるのですが、今年は隣接するグループホームからすいかの苗をいただき育ててみることに。初めはちゃんと育つかと不安もありましたが、子どもたちが毎日水やりをしていくと、いくつかの実が・・・！すいかの生長は毎日の登降園時の親子の楽しみにもなりました。ところがいざ収穫となるとカラスにつつかれたり、暑さで割れてしまったりと悔しいことが続きましたが、ようやくお盆明けに収穫することができ、すいかを手にした子どもたちは笑顔でいっぱいでした。

そして、すいかと同時にグループホームのおばあさんたちとパケツ田植えを楽しんだ子どもたち。稲穂が少しずつできてきています。「夏」が終わってもまだまだ日々のチャレンジは続きます。

つまちなか保育園

～いらっしゃいませ、夏まつり！～

ここ数年5歳児の子どもたちが中心となって夏まつりが開催されています。法被を着て準備万端！「お客さん来てくれるかな？」とソワソワ・ワクワクの子どもたち。いよいよお客さんがホールに…。5歳児の子どもたちが優しく遊び方を伝えてあげ、楽しい夏まつりとなりました。

夏まつりを通して優しく頼もしい姿を見せてくれた5歳児の子どもたち。その姿を見た4歳児の子どもたちが『次は自分たちが!』と、楽しみにしています。



鈴鹿シルバーケア豊寿園

10周年記念イベント開催



おかげさまで、鈴鹿シルバーケア豊寿園は10周年を迎えることができました。その周年イベントとして、地域の皆様との交流を目的とした「Suzu Cafe」を8月20日に開催いたしました。

コロナ禍にて、イベントを開催できない年が続いていましたが、数年ぶりに地域の皆様をお迎えするとともに、皆様楽しんでいただけるよう様々なイベントを企画いたしました。

コーヒーマイスターの資格を持つスタッフから、ハンドドリップによるコーヒーの提供のほか、ほうじ茶、イチゴ、コーンの3種類から選べる「ふわふわかき氷」、や陶芸絵付け体験、お菓子づくり、抽選会、マッサージ体験、お仕事相談、介護相談、体験を交えた福祉用具の展示など、盛りだくさんの内容でした。当日は、地域や普段ご利用の皆様など予想を上回る多くの来場者にお越しいただき、大盛況に終わることができました。

また今回のイベント開催において、法人内の拠点や事業所を越えた多くの仲間の協力がありました。仲間たちの協力と支援により、大きなひとつの目標を成し遂げることができたことは、私たちにとって非常に良い機会にもなりました。鈴鹿シルバーケア豊寿園は、これからも地域の皆様に愛されるようにスタッフ一同邁進してまいります。



今年も多くのご利用者が長寿を迎えられました。心よりお祝い申し上げます。
長寿を迎えられたご利用者にインタビューさせていただきました。



坂森 文平様 (105 歳)

ご利用事業所 居宅介護支援センター
伊賀シルバーケア豊壽園
(伊賀市久米町)



収集された貴重な切手を見せて下さいました

Q. 楽しかった思い出を教えてください。

A. 思い出すのは楽しい事ばかりです。100年のうち50年、登山をしました。日本アルプスから近くの山までいろんな山に登りました。山に登るのは苦しいです。汗をかいてしんどく苦しいですが、それが楽しみです。人に与えたり与えられたりできない、自分だけの楽しみです。

Q. 長寿の秘訣を教えてください。

A. じっとしてはいけい。寝てしまっはいけい。歩いたり散歩して動くことです。お酒はもともと飲めなかつたが、たばこは60歳くらいでやめました。乱暴な生活をしてはいけません。天から与えられた命を大切に維持していかなあきません。

Q. 今、楽しみにしていることを教えてください。

A. 以前は趣味で切手収集をしていました。現在は、週に1回の訪問リハビリを楽しみにしています。好物のうなぎを食べることも楽しみです。



須川 てる様 (102 歳)

ご利用事業所 第1通所介護センター
シルバーケア豊壽園
(津市高茶屋小森町)



Q. 楽しかった思い出を教えてください。

A. 特に覚えていませんが、食事をしている時が楽しく幸せです。

Q. 長寿の秘訣を教えてください。

A. 何でも食べる事です。朝は毎日、牛乳、バナナ、味噌汁、卵を欠かさず食べています。

Q. 今、楽しみにしていることを教えてください。

A. デイサービスに行くことです。特に今回は、通所3事業で1番の年上と言うことで、祝賀会に出ることが楽しみなんです。

接遇委員会 (新人・マナー研修)

ともに学び、ともに育む

5月28日に、接遇委員会主催による恒例の新人研修が、第二はなこま保育園の遊戯室にて開催されました。

今回は、吉野宮滝野外学校の講師をお招きし、「新人職員同士の交流」「同期の人間関係作り」をテーマに、アクティビティを主体とした出前授業となりました。

研修開始時は、互いに話したことのない人も多く、とても緊張している様子が伝わってきました。それが、講師のホイスルに合わせて、チームごとに様々なゲームや課題に汗を流す中で徐々に打ち解け、「明確に設定された目標を達成する為にどうすれば良いか」など、皆が率先して意見を出し合う雰囲気が醸成され協力していく姿が印象的でした。

最後は「スパイダー」と称するアクティビティで、蜘蛛の巣状に張り巡らされたロープの間を、鈴を鳴らさず一人残らずくぐり抜けるという難易度の高いゲームを、参加者全員が一丸となって達成することができ、笑顔の輪が広がりました。

色々な性格・考え方の人がいる集団の中での自分の役割や、今自分がどのような行動をとるべきか、ということをとっても考えさせられる充実した内容でした。



一方、そんな新人や若手の指導に直接関わる職員を対象としたマナー研修が、7月15日に、法人本部及び各地区をZoomでつないだハイブリッド方式にて行われました。

外部講師から接遇のポイントを復習しつつ、「どうして接遇を学ぶのか?」「それをどのように新人に伝えて指導していくのか?」という所に焦点を当てて考えていきました。

「伝えたいことがうまく伝わらない。」「相談してもらえないような関係性を普段から構築するのが難しい。」など、自らが課題を抱える中で後輩を指導していく大変さ・難しさを共有するとともに、新たなヒントをつかむ良い機会となりました。

所属する事業や役割によって様々な課題がありますが、今回の研修を通じて得た学びを実践として形にしていくことが重要で、個々として、また組織としての成長に繋げていけることができる実のある研修となりました。